

平成 25 年度 JICA ベトナム国国別研修「首相府能力強化（PPP^{*1}推進）」

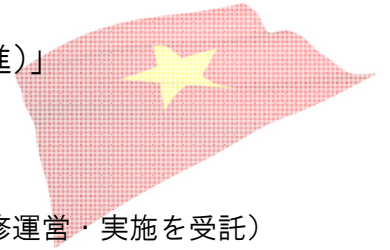
研修期間：平成 25 年 11 月 21 日～11 月 29 日（約 1 週間）

研修場所：神戸市/大阪府/東京都

（うち、神戸市内に滞在する 11 月 26 日～29 日の期間中、研修運営・実施を受託）

研修内容：ベトナム国首相府（日本では内閣府に相当）を対象とした、PPP 事業の推進及び運用に関する講義／視察／意見交換会

参加研修員：ベトナム国から 16 名（首相府ならびに中央省庁等職員）



ベトナム国首相府副大臣（前列右から 4 番目）を団長とした、16 名の大調査団が来日しました。

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、ベトナム国国別研修「首相府能力強化（PPP 推進）」を実施しました。

ベトナムは、諸外国からの政府開発援助や投資によって、ここ 20 年余りで急速な経済成長を遂げています。ASEAN（東南アジア諸国連合）では、タイと並ぶ「中進国^{*2}」の一つと位置付けられ、東南アジア地域の経済を牽引する存在となりつつあります。また、日本企業からも、海外進出への足掛かりとして、高い関心を集める国です。

ところが、外国資本が経済成長の大きな支えとなり、それがまた同国への新たな投資の可能性を高めている一方で、電気や水道・交通網など社会基盤（インフラストラクチャー）の脆弱性が、投資環境に悪影響を及ぼしている一面も指摘されています。

早急な社会基盤整備が求められているとはいえ、ベトナム政府の資金は限られています。そんな中、逆にまだまだ整備が不十分なこの分野に着目し、インフラ事業をビジネス市場として、民間企業による投資を促進することにより、開発を進めようとする動きが活発になっています。また、これに呼応するように、外国企業もベトナムでのインフラビジネスの拡大に、大きな期待を寄せています。

そこで、政府と民間企業（投資家）が連携して行う投資に関して、日本の知見と現状を伝えることで、より実態に即した規定や制度の整備に役立ててもらおうと、この研修を実施しました。

研修員は、まず東京で、日本政府の PPP 推進方針や、PPP 関連法案の法体制など PPP 制度導入に関する総合的な課題について理解した後、実際に地方で実施されている PPP 案件の運用の実態を学ぶため、神戸市にやってきました。

こちらでは、導入として、神戸市企画調整局公民連携推進室から、神戸市における PPP の一連の取組みをご紹介いただいた後、現在、PPP 案件を実施もしくは検討している現場に赴き、より具体的な運用の実状について、現場担当者から直接説明を聞き、意見を交えることで、貴重な気付きを得ることができました。

^{*1} PPP とは、「Public-Private Partnership」の略で、「官民連携」のこと。民間事業者の資金やノウハウを活用して社会資本を整備し、公共サービスの充実を進めて行くための手法。

^{*2} 中進国とは、低所得国である後発途上国よりも国民所得の高い中間所得国のこと。世銀では、一人当たり国民所得が約 1000～1200 ドルの国と定義されている。



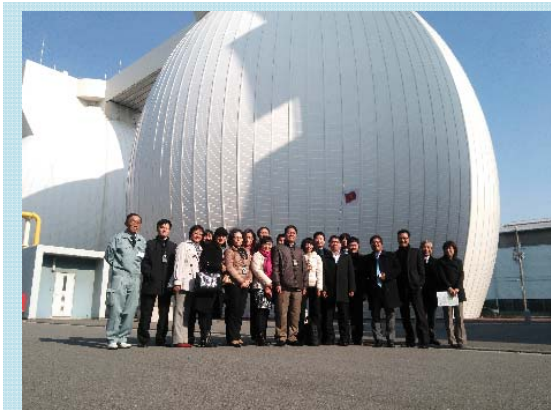
～研修を振り返って～

日本とベトナムとの外交が始まったのは、1973年。2013年は両国の外交関係樹立40周年の記念の年です。

わたしたち日本人にとって、ベトナムは大変なじみ深い国と言えます。街中ではベトナム料理のレストランを簡単に見つけることができますし、ベトナムへ観光に訪れる人も多く、最近ではハノイやホーチミン以外への観光客も増加傾向にあるようです。また、特に神戸市では、市内に住む外国人の出身国のうち、韓国・朝鮮、中国に次いで多い国がベトナムであり、市民の皆さんの中には、この国に親近感を持っている人も多いのではないのでしょうか。

今回の研修には、16人のベトナム政府職員が参加。過去に来日経験のある研修員もいましたが、ほとんどが関西を訪れるのは初めてということでした。しかし、この研修を通して、世界に誇れる関西の魅力を、十分に感じてもらう事ができたと思います。

神戸市は、実に多種多様なPPP事業を実施しています。例えば、話題性の高い「ほっともっとフィールド神戸」などのネーミングライツ事業も、その一つです。このほかにも、公共施設の設計・建設・運営の委託や、福祉やまちづくりなどの専門分野における包括協定などを通して、民間事業者と連携し、公共サービスの向上に努めています。



写真に収まりきれないほどの、巨大なタンクを前に記念撮影。このタンクで発生するガスが、自動車の燃料に生まれ変わります。

まずは、これら一連のPPP事業の概要と、官・民の連携に関する神戸市の方針について、講義を受けた後、実際に、下水道事業におけるPPP事例の運用実態を学ぶため、東灘下水処理場を訪れました。ここでは、DBO（Design, Build and Operate）という方式が採用され、株式会社神鋼環境ソリューションが、東部スラッジセンターという汚泥焼却施設の設計・建設・運用^{*3}を行っています。

PPPと言っても、導入されるまでの過程には、現場担当

者による丁寧な事前調査が不可欠でした。契約の内容や条件のほか、導入後想定する課題や効果を検証して、PPPの大きな目的である「市民が支払う税金に対して、最も高い価値を提供する」ことを目指す必要があります。それを達成するには、現場の担当者、そして、契約相手方となる民間事業者の双方の立場やリスクを見過ごすことはできません。官・民双方の負担を軽減させ、成長を後押しするために、臨機応変な対応が可能となる制度や体制の整備が重要であることを学ぶことができました。

また、東灘下水処理場では、民間事業者と連携して「こうべバイオガス活用事業」も行われています。これは、「こうべバイオガス」



こうべバイオガスで走る市バスがガスを注入するところを、実際に見学する事ができました。

^{*3} 東部スラッジセンターの運転維持管理業務については、同社グループ会社である神鋼環境メンテナンス株式会社と共同で受託している。

と呼ばれる、汚泥焼却の過程で発生する消化ガスを再資源化して生まれたガスを、自動車の燃料として活用する取り組みのことで、ベトナムでも導入可能な環境に優しい技術として紹介されました。

ここでは、バイオガスの精製を安定的に一定量以上確保するため、神戸でおなじみのお菓子のくずや木片などが触媒として利用されています。この技術を活用すれば、ベトナムでも、例えばベトナムコーヒーのかすなどを再利用して、クリーンエネルギーを精製し、自動車燃料や発電に活用することができるかもしれません。研修員も、こうべバイオガスステーションでバスに給油する様子や、消化ガスが発生する巨大なタンクに興味津々といった様子でした。

また、現在、空港の運営権売却（コンセッション）のための準備を行っている関西国際空港へもお邪魔しました。

関西の空の玄関口である2つの空港、関西国際空港と大阪国際空港が経営統合し、新関西国際空

港株式会社が設立されました。現在は、同社が両空港を一体的に管理・運営し、格安航空会社の拠点となる新ターミナルの整備など、新たな事業を展開しています。そして、より利用者から愛される空港へとなった上で、さらに質の高いサービスの提供とコストの削減を実現すべく、民間事業者に事業運営権の売却を行う事を目指し、準備を進めているところです。

今回の視察では、コンセッション契約を念頭に置いた、新関西国際空港株式会社の取組みについてご説明いただいた後、普段なかなか足を踏み入れる機会のない管制塔に上り、空港全体の様子を見せていただくことができました。



高さ 80 メートルの管制塔からは、関西国際空港の2つのターミナルを、鳥の目線で見渡すことができます。

研修最終日には、神戸港が整備されてきたこれまでの歴史と、港湾施設の管理・運用における民間企業との関わり、そして今後の国際戦略についての講義を受け、担当者との意見交換を行いました。

この地に港が開港したのは1868年、今から約150年ほど前のことです。それから何度か拡張工事を重ね、また1995年には阪神淡路大震災による大きな被害を受けながらも、神戸港は長い間、国際物流の拠点として、世界の中枢港の役割を担ってきました。また、2010年には、国土交通省により「国際コンテナ戦略港湾^{*4}」に選定されるなど、これからも日本を代表する港として、ますますの発展が見込まれています。研修員からは、ベトナムにも多くの港があり、これらの戦略的な活用や施設整備などに関して、日本の例を学ぶ貴重な機会になったとの声も聞かれました。

そして、講義・意見交換会の後は、実際に神戸港へ足を運び、海上からコンテナバースなどの港湾設備を見学しました。研修員は、自国にある多くの港の状況との違いに驚き、一つ一つ目に飛び込んでくるものに興味を抱いて、積極的に質問していました。また、六甲山系を望む美しい光景に感嘆の声を上げ、嬉しそうに写真を撮る姿も見られました。

^{*4} 他の東アジア主要港と対峙する港湾サービスの提供をはかるため、国土交通省が国際コンテナ戦略港湾として阪神港（大阪港・神戸港）と京浜港（東京港・横浜港）を選定した。対象港湾には集中的な投資が行われ、国内の貨物を上記の2港に集約させることなどによって、日本の港湾の国際競争力が向上することを目的としている。

関西での日程は、たった4日間という短い滞在でしたが、多くの研修員がこの土地のファンになって帰国していきました。「地震が起きたことで神戸のことは知っていたが、実際に訪れ、神戸がこれまで訪れた世界の都市の中で一番好きな町になった」と言ってくれた研修員もいます。

神戸市は現在、キエンザン省・ロンアン省における水インフラ事業やハイフォン市との港湾事業など、多分野にわたってベトナムとの人材交流や技術協力を推進しています。今回の研修は、実際に日本国内でこういった取組みがなされ、ベトナムでどう生かすことができるのかを、相互に良く知り、関係性を強化していくための、大変良い機会となりました。

日本とベトナム、官と民、それぞれの強みを生かし、互いに成長し合える関係を構築していくため、彼らが両国の力強い架け橋となってくれることを祈っています。



海と山に挟まれた美しい街、神戸。海から臨む情緒あふれる市街地と、美しい山並みに、研修員の笑顔があふれました。

研修担当：曾輪 沙耶加

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

講義/視察先：

神戸市企画調整局/神戸市建設局/神戸市水道局/神戸市みなと総局/

一般財団法人神戸すまいまちづくり公社/株式会社神鋼環境ソリューション/

新関西国際空港株式会社/国土交通省大阪航空局関西空港事務所/神戸港埠頭株式会社

【順不同】